

平成 29 年度第 2 回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 3 階中会議室

H30.2.19 18 : 30 ~ 20 : 00

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 議事

①高知市口腔保健支援センター事業

事務局より説明

【宮川会長】

高知市歯科医師会が委託を受けて実施しているフッ化物洗口 Q&A 作成事業と医歯薬連携推進事業について田岡委員より説明をお願いしたい。

【田岡委員】

フッ化物洗口をすすめるための関係者むけの Q&A を中心としたマニュアルを作成している。フッ化物の必要性、実施するための方法、よくある質問に対する Q&A を盛り込んでいて、分かりやすい内容になっている。年度内には完成するので、現場で活用し、フッ化物洗口を実施していく際の参考にしていただければと思う。

また、医歯薬連携推進事業は、12 月 7 日に大阪大学の天野教授をお招きして、歯周病と生活習慣病についての講演をしていただき、医歯薬の関係者が 83 名出席した。今回は、歯科医師が講師であったが、今後は医師を講師と呼ぶなど、医科薬科の先生方もたくさん来ていただける内容にしていきたいと思っている。

あと、昨年度作成したパンフレットを活用いただくための簡単な解説書を作成した。リーフレットも増刷したため、一緒に配る予定である。活用をお願いしたい。

【宮川委員】

先ほど説明にあった、12 月に医歯薬連携研修会を行ったが、医歯薬連携推協議会の委員でもある山村委員、竹島委員、ご意見をお願いしたい。

【山村委員】

歯周病と全身の関連性について、症例を出しながら説明してもらい、口腔内を健康にしていくことの重要性を改めて勉強させてもらった。

【竹島委員】

平日の夜だったため、薬剤師の参加が少なかった。医歯薬連携という意味では、薬剤師が医科にも歯科にも繋げていく役割なので、こういう機会があれば、参加者を積極的に募っていきたいと思う。

【宮川会長】

この事業は、今は関係者間で共通認識をもつための研修等を実施しているが、将来的には、市民の方々に普及啓発できる場を持ちたいと思っている。またご協力をお願いしたい。

②健康づくり計画（案）に基づいた今後の取組について

事務局より説明

【宮川会長】

事務局より第2期高知市健康づくり計画の今後5年間の方向性の説明だったが、その中で具体的に取組んでいくことについてご意見をいただきたい。

幼児期・学童期について、今まで保育園・学校でのフッ化物洗口の普及や学園短大の協力での歯科指導などに取組まれていることに加えて、食べ方やかむことに対する取組を行っていくということだが保育園等の現場ではどうか？

【中山委員】

現在は実施していないが、あいうべ体操について、歯医者さんから聞いたことはある。今後取組んでいけると思う。

【宮川会長】

小学校の現場ではどうか。

【伊藤委員】

養護教諭が、フッ化物洗口等の取組の中心になっているが、ベテランが次々に定年退職するため若い養護教諭に世代交代する学校が多い。そのため、養護教諭の取組としては、現状維持が精一杯で、新しいことに取組む余裕がない学校が多い。校長の立場としても無理に進めにくいので様子を見ている状況である。

今日の報告にあったむし歯の割合が、小学校も中学校も全国平均より高いし、歯肉に炎症のある割合も小学校では増加傾向にあるため、むし歯や歯肉炎予防の取組は必要で、こういった結果を周知していくことも大切だと思っている。養護教諭とも学校の課題をしっかりと話し合っていくことが必要だと思っている。

かむことについては、改めて取り組むというより、意識化していくことで広がっていくことなので進めやすいと思う。

【田岡委員】

学校現場は、朝でも帰りでも2分くらいの時間は取れないものか。

【伊藤委員】

1週間に2回ほどなら可能かもしれないが、学力や体力向上の取組も必要なため、毎日時間を取ることは難しい。

【宮川会長】

児童は、学校の先生の話をしている時など、口をぽかんと開けている子も多いと思う。先生の話をしている時に「あいうべ体操」をすとか、工夫しながら何か取り組みめたらと思う。

【山村委員】

高齢施設では、食事の前に「あいうべ体操」に取り組んでいる。小学校でも給食の前に取り組むなら可能ではないかと思う。食事ごとに1分間なら時間を作りやすいのではないか。

【大野委員】

小学校の歯肉炎指導を2時間取れる学校は、教員の方から「あいうべ体操」を指導している。来年度は、学生中心の指導になるため、高知市と相談をしながら指導内容に体操を盛り込んでいきたいと思っている。歯肉に炎症のある所見の結果も見て、小学校への指導の必要性をさらに感じた。

また保育園にも高知市内は16園指導に行っているため、体操の指導も盛り込んでいきたいと思っている。

【植田委員】

高知県歯科衛生士会も高知市内の保育園等から依頼があり何件か指導に行っている。

現在は、与えられた時間の中で、園の希望に合わせて実施をしており、内容は担当の歯科衛生士に任せている状況だが、歯科衛生士会としても今必要な問題を研修会等で周知していき、効果的な指導を行っていきたいと思う。

【宮川会長】

少しずつでもいろいろな意見を聞きながら、ゆっくりでもいいので取組を進めていけ

たらしいと思う。

続いて、成人期の取組について、歯周病と全身への影響について市民への周知が十分でないこと、よく噛んで食べている人が少ないという結果もあったが、ご意見をお願いしたい。

歯科医師会では、医歯薬連携推進事業で、啓発するためのパンフレットを作成したが、糖尿病と歯周病の関連等について、病院の現場の方ではどうか。

【山村委員】

糖尿病と歯周病についての普及啓発については、病院の現場ではなかなか難しいところもあるが、よく噛んで食べるということは、糖尿病の人もその他の病気の方もどんな場合でも大切なことになっているため、普及啓発をしていると思う。

高齢者の場合は特に、歯のかみ合わせや入れ歯の具合が悪い方も増えてくるため、かむことについての指導をする機会は多くなってくるが、若い世代の方への啓発はまだまだでないかとは思う。

【竹島委員】

検査値を持って、薬局へ来る方は、糖尿病の患者さんが多い。先日の県のフェアラムで、糖尿病専門医の話の中でも、内科へ行く前に歯科へという話を聞いた。

薬局へ来られた方に、歯科の話もできるし、また糖尿病連携手帳を持って来られた方には歯科の項目のページを確認し、受診していない方にはすすめることもできる。

また、呼吸器科の処方箋を持って来られる方も多いので、誤嚥性肺炎の話を薬局で話することもできるし、在宅へ薬を届けている組もいるので、寝たきりの患者さんにもお伝えすることができる。

【宮川会長】

食えること、噛むことが大切という話があったが、意識を持って取組を進めていきたいと思う。医歯薬が一つになって連携しながら考えていきたい。市民講座等も今後検討していきたいと思っている。

市民へ向けての啓発として、いきいき健康チャレンジと連携して取り組んでいくことはできないか。

【田岡委員】

いきいき健康チャレンジに携わっているが、例えば、健康チャレンジ中に歯科医院に健康づくりのために受診したらシールをもらえるとかが、ご褒美があったら行きやすいのではないかと思っているが、パスポートのシールのほうは、県の歯科医師会や県へ相談していくが、健康チャレンジの中に歯科の項目を入れてもらえたらどうかと思っている。

噛むことについての働きかけとして、毎年6月に行っている歯っぴいスマイルフェアの中でも、啓発できるブースを作っていきたいと考えている。

【事務局】

いきいき健康チャレンジは生活習慣病予防に関する協議会の委員さんにご意見をもらいながら、検討をしている。協議会の委員にもなってもらっている植田委員からも、歯科の項目を入れられないかというご意見をもらっている。

チャレンジ目標の5つの項目（体重を測る、血圧測定、8000歩歩く、週2日休肝日をつくる、禁煙をする）については大きく変更する予定はないが、例えば体重測定にチャレンジしている方が食事のことから噛むことについても意識づけることができないかと検討をしているところである。また田岡委員から、健康づくりのための歯科受診をしたらシールをとというご意見をいただいたが、現在はチャレンジに3か月間挑戦した方には30枚シールをお渡ししているが、展開について担当者間でも検討をしていきたいと思う。

【植田委員】

歯科衛生士会は、いきいき健康チャレンジや、毎年参加させてもらっている、歯っぴいスマイルフェアの中で測定コーナーとして、唾液量の測定と口臭チェックを行っている。ただ数値の結果をお伝えするだけでなく、どうして唾液量が少ないといけないのか？など詳しくお伝えすることができるようにし、市民の方の意識づけにつながるようなアドバイスが行えるよう、パンフレット等も作成し対応していきたいと思っている。

【大野委員】

公共のトイレ等で、「手を洗いましょう、うがいをしましょう」といったポスター等は見かけるが、「歯を磨きましょう」はない。学園短大の歯科の学生は、昼休みに必ずトイレで歯を磨いている。それを見て、他の学科の学生も磨くようになった。歯磨きなどの取組は環境づくりから広がっていくものではないかと感じている。

【竹島委員】

あんしんセンターで研修が1日あった日があり、昼休みに研修会場と同じ階の2階のトイレに行くと、歯磨きをしている人でいっぱいだった。3階に行っても1階に行っても歯磨きをしている人がいっぱいいた。保健所の女性職員はたくさんの方がお昼休みに歯を磨いていることに驚いた。最近の公共トイレはとてもきれいになり、歯磨きもしやすい環境になっていると思う。

あと、地域の中の啓発として、高知市には百歳体操の会場が100か所以上ある。こういった既存の場所を活用して、歯周病の啓発を行ったらどうかと思う。また地区ごとに

イベントを行っているので、夏祭りや、秋のおまつり等も行っているので、啓発ブースを構えて啓発を行ったらどうか。薬剤師会もおまつりの中で、薬物の啓発を行った。そういった場所でも啓発していったらどうかと思う。

【宮川会長】

よくかむということの啓発についての取組はどうか。保育園等での現場では困っていることはないか。

【中山委員】

最近は少なくなってきた。かむことについても、園児が食べる場所は職員が気を付けて見るなどの取組を行っている。必要な情報は保護者に情報提供し、水分摂取についても、ストロー式の水筒でなく、口の発達のためにコップの水筒に切り替えるようになどの啓発を行っている。

かむことについても取組は行っていけると思う。その場合は、保護者も一緒に話を聞いてもらい、家庭で実践できるようにつなげていきたいと。

【宮川会長】

小学校現場では給食の時間等はどうか？

【伊藤委員】

給食については、準備から食べるまでに時間がかかるため低学年は20分くらいしか食べる時間がない。また中学校給食も来年度始まるので、いろいろ心配ではあるが、中学生は準備の仕方は慣れているので時間がかからずできると思う。

家庭の格差は大きいので、健康づくりという視点を働きかけていく必要はあり、保育園や幼稚園、学校等から発信していく必要性はあると思う。

【中山委員】

学校の現場だけでなく、小学校ではスポーツ少年団等があるので、そういったスポーツの関係の団体等にも健康づくりの視点を働きかけていくこともできるのではないかと思う。

【伊藤委員】

最近、学校現場では歯のトラブル、怪我が多い。昔はぶつかっても歯が欠けるということで済んでいたが、最近の子は歯が抜けることもある。顎がカルシウム不足で弱くなっているのではないかとも思う。

先ほど意見が出た、スポーツ少年団への働きかけについては、地区の体育会や市のスポーツ振興課が窓口になるので、そちらを通したらいいと思う。

【山村委員】

食事についてだが、自分たちが子どもの頃から食事は早く食べるという教育が根付いている。今も昔も、朝ごはんや給食は時間との戦いで、ゆっくり楽しみながら食べる時間が取れない状況だと思う。そのため十分に咀嚼ができないまま飲み込んでいる子も多いと思う。今朝の新聞に載っていたが、最近の子どもは、りんごをそのままかじられないとのことで、普段から皮を剥いて小さく切った状態に慣れているからだと思う。

かむことにしても、歯磨きにしても、小さいころから毎日やっていくことで、考えなくてもできるあたりまえの習慣となっていく。そうなることで大人になっても毎日の行動となっていくものだと思う。

【宮川会長】

今年度末に策定される第2期健康づくり計画に基づいて取組をすすめていくということでご意見を出してもらったが、まとめると、幼児期や学童期ではむし歯予防のためのフッ化物洗口や歯肉炎予防に併せて「かむこと」を意識づけていくこと、成人期では多職種が連携して歯周病と全身の関係を市民の方に普及啓発すること、また、健康づくりのために「しっかりよくかんで食べる」ことを習慣として根付かせることが必要だというご意見をいただいた。

すべての世代を通じて口の働きの「食べること」「かむこと」に視点をおいて、できることからそれぞれの立場で取り組んでいき、歯科の方でも頑張って普及啓発していく必要性を感じた。

3 高知市保健所長挨拶

閉 会

事務局より連絡事項

委員の任期は3月31日まで